

大宰府不丁地区官衙跡の調査成果

大宰府^{ふちやう}不丁^{かんが}地区官衙跡は、大宰府政庁跡の南西に位置する官衙（役所）跡です。現在、大宰府政庁跡の南側は住宅地となっていますが、住宅地の下には区画整理に伴う発掘調査により大規模な建物が広範囲に存在することが判りました。

不丁地区官衙跡の範囲は、東側の政庁跡前面広場との境が南北溝 SD2340（幅約 6 m）によって区切られ、西隣の大楠地区官衙跡との境は南北溝 SD320（幅約 16 m）で区切られており、両溝間の距離は約 76 m となります。ただ、SD2340 は、8 世紀後半には役割を終え、その後は板堀に替わったものとみられます。一方、SD320 は 11 世紀後半代まで存続します。南北域については、北側が蔵司地区官衙跡南端の築地 SA1410 の前面に想定されている東西溝で、南端が朱雀門^{すざくもん}の礎石が発見された御笠川までの南北長約 220 m となります。

官衙跡の内部は、東西溝によって三分割され、総数 63 棟の建物を確認しました。建物は 7 世紀後半から 10 世紀中頃にかけての変遷がみられますが、その最盛期は 8 世紀前半から 9 世紀中頃にあります。しかし、11 世紀以降には黒色粘土を掘削した土取り場となり、官衙としての役目が終わります。



政庁前面官衙想像図

なお、先ほどの SD2340 からは 186 点^{もっかん}の木簡が出土していますが、天平六年(734)・同八年(736)の紀年銘木簡、軍団・南島（奄美島・伊藍島）・紫草に関する木簡もあります。なかでも、南島に関する木簡は、大宰府の支配が遠く南方まで及んでいたことを示す貴重なものです。紫草に関する木簡は、大宰府の所司の一つである「貢上染物所^{こうじょうぞめものしよ}」に関するものとみられています。その他に、墨書土器・刻書土器・硯などの文字に関する資料、製塩土器・漆附着土器などの生産関連遺物、韃羽口・鋳型・埴塼・鉄滓などの製鉄・鋳造関連遺物も他の官衙跡に比べて多量に出土しています。

また、文字資料のなかには、「主典^{さかん}」・「政所^{まんどころ}」・「匠司^{たくみのつかさ}」・「細工^{さいく}」(所)などの官職及び所司名を記したものが出土しており、不丁地区官衙には事務的官司と工房的官司が併存していたことを裏付ける資料と言えます。

現在、九州歴史資料館では、大宰府政庁の周辺に造営された官衙の正式報告書を順次刊行しており、新たな事実が次々に明らかとなっています。それについては、九歴講座・展示などで紹介していきたいと考えています。



付札木簡

四王寺山の独鉈杵

独鉈杵とは、古代インドの武器に由来する、密教法具です。密教の僧侶が修法に際して用いる、聖なる道具です。古い作例ほど武器の面影をよくとどめ、新しくなるにつれてそれを希薄にして、象徴的なものになってゆくことが指摘されています。

ここで紹介する独鉈杵は、福岡県糟屋郡宇美町の四王寺山の毘沙門堂周辺から、近年見出されたものです。散策中の方が偶々見つけ、それが宇美町教育委員会の文化財担当へと託されて、その後、町と当館が共同で行った調査によって、九州では希有の古例であることが明らかになった作例です。

材質は銅。全長は19.6cm。そして把部、つまり断面形状が円形である握りの部分は、長さ6.1cmで、鉈部、つまり把部の両方に延びる、断面形状が四角形である刃の部分は、長さ6.7cm程度を測ります。

把の真ん中には、鬼目と称される丸い出っぱりが、4つ巡らされています。鬼目の両側はまるで鼓のような形をしています。鬼目と称される丸い出っぱりが、4つ巡らされています。鬼目の両側はまるで鼓のような形をしています。鬼目と称される丸い出っぱりが、4つ巡らされています。鬼目の両側はまるで鼓のような形をしています。

蓮弁、つまり蓮の花びらの真ん中を、紐と称される、3本の紐状のもので締めて絞っているものです。蓮弁の両先端には、蕊と称される細かい刻み目が入られています。そして鉈は、把寄りにぐっと節が張りつつ、その先は長く鋭く切っ先が伸びています。鉈の4つの側面は、平面ではなく微妙な凹面で、いわゆる匙面としています。

この独鉈杵の、鬼目が円形に近く飛び出しが強く、蓮弁を締める紐が3本であり、蓮弁が簡明な形をしていて、鉈部が把部よりも長く、鉈に匙面をつけているという特徴は、平安時代後期の特徴として指摘される所によく合致しています。この独鉈杵は、平安時代後期の典型を示す作例であり、中でも美しい遺例の1つです。また近年四王寺山については、聖地としての側面が注目を集めるようになっていますが、そのような中で登場したこの独鉈杵は、密教の要地としての山の性格を明らかにしてゆく上で、重大な意義をもった存在でもあります。詳しくは当館研究論集 41 をご覧ください。

四王寺山の独鉈杵
(宇美町所蔵)

九歴名品探訪 Vol. 4

赤い土器【丹塗磨研土器】

(朝倉郡筑前町栗田遺跡出土 国指定重要文化財 国(文化庁)所蔵)

丹塗磨研土器とは、今から2,000年ほど前の弥生時代、現在の福岡県西部から佐賀県東部の地域において製作されたもので、ベンガラなどの赤色顔料によって真っ赤に塗られ、ヘラ状の工具で丁寧に表面を磨かれているのが特徴です。日常的に使用する土器とは異なり、同地域における特徴的な墓制のひとつ、甕棺墓での儀式に用いられた土器と考えられ、筒形器台や壺、高坏などの種類が見られます。

今回紹介する丹塗磨研土器は、筑紫平野の北、筑前町の栗田遺跡で出土したもので、この遺跡では、54基もの甕棺墓と、それに伴う祭祀遺構8か所が見つかっており、丹塗磨研土器は、祭祀遺構で出土しています。これらの土器や甕棺は、弥生時代の北部九州における甕棺墓による埋葬儀礼の祭祀を具体的に示す重要な資料であることから、国の重要文化財に指定されています。このたび甕棺の修理が終了し、平成28年秋に展示公開する予定です。



※筒形器台のみ福岡県立朝倉高等学校所蔵

文化財サイエンス・ラボ Study2

「蛍光X線分析によるわが国初のガラス製辻金具の発見」

当館では、豪華な古墳時代の馬具が大量に見つかり、世紀の発見ともいわれる、古賀市船原古墳遺物埋納坑から出土した遺物の科学的調査と保存修復作業を、古賀市教育委員会と共同で実施しています。これまでX線CTスキャナにより、類例のない金銅製歩揺付雲珠を発見しましたが、^{ふなばる}またも科学の力により、わが国において初めての発見となった、ガラス製辻金具をここでご紹介します。

今回、発見に導いたのはX線ですが、X線には、病院のレントゲンやCT撮影でおなじみの物体を透過する性質のほかに、物体が構成する元素を知ることができる性質があります。この性質を利用した調査方法に、蛍光X線分析法があり、含まれる元素の種類を分析すると、どのような材料で作られているのか推測できます。

この方法を使って、辻金具の調査を行ったところ、左の写真でみえる白色部分は、鉛(Pb)が多く含まれていて、この部分は鉛ガラスであることがわかりました。また、同時に外側の土や緑青に覆われている部分は、もともと金(Au)で装飾されていることがわかりました。このような鉛ガラスで装飾された辻金具は、わが国においては初めての発見であり、お隣の国、韓国では、慶州の皇南大塚古墳で見つかっていることから考えると、新羅との交流を色濃く、うかがうことができます。

さらに、この調査の成果を活かし、X線CTスキャナのデータを3Dプリンタで出力し、色や形を立体的に復元しました。船原古墳の時代(6世紀後半頃)の鉛ガラスは、緑色が多く確認されていることから、中心を緑色のガラス、周りは金色に輝くものと推定しました。この豪華さは、当時の人たちにとって、垂涎の的ともなっていたことでしょう。



出土した辻金具(左)と復元模型(右)

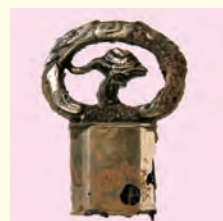
平成28年度上半期に開催される展覧会

展示紹介

第35回企画展 「きゅうおにとタイムトラベルー大昔のくらしと国づくりー」

会期：3月1日(火)～7月18日(月・祝) 会場：第2・4展示室(第4展示室は5/17～)

内容：福岡の大昔の人たちは、どんな服を着て、どんな物を食べてくらしていたんだろう？
そんな歴史の疑問を、「きゅうおに」とタイムトラベルしながら探ります。県内の出土資料とイラストパネルで、大人もこどもも楽しめる展覧会です。



皆見大塚古墳出土
鳳環頭大刀

第36回企画展

「発掘速報展2016 ～東九州自動車道関係埋蔵文化財発掘調査成果展～」

会期：7月20日(水)～9月19日(月・祝) 会場：第2・4展示室

内容：毎年恒例の県内各地の発掘調査成果を紹介する「発掘速報展」は、今回、東九州自動車道建設に係る発掘調査の成果を総括します。整理作業中のため過去の速報展では展示できなかった資料も初お目見えします。東九州道関係の逸品が一堂に会するめったにない機会です。

特集展示「新収蔵品展示 絵葉書にみる福岡の風景」

会期：7月12日(火)～9月11日(日) 会場：第1展示室

内容：絵葉書に写された、少し古い時代の福岡。その頃の街や名所の姿を、新収蔵の絵葉書からご紹介します。



戦前の
天拝山の絵葉書

特別展「八女の名宝(仮)」 9月22日(木・祝)～11月13日(日) 乞うご期待!

九州歴史資料館	行事・事業予定
展 示	常 設 展 示：「歴史（とき）の宝石箱」（第1展示室）【4月1日（金）～9月11日（日）】 特 別 展 示：9月22日（木・祝）～11月13日（日）「八女の名宝－福岡の歴史文化遺産①」（仮称） 企 画 展 示：3月 1日（火）～7月18日（月・祝）「きゅうおにとタイムトラベラー大昔のくらしと国づくり」 7月20日（水）～9月19日（月・祝）「発掘速報展 2016 ～東九州自動車道関係埋蔵文化財発掘調査成果展～」 特 集 展 示：7月12日（火）～9月11日（日）「新収蔵品展示 絵葉書にみる福岡の風景」 パ ネ ル 展：3月23日（水）～6月19日（日）「保存科学成果展 - 古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最前線 2015―2016 -」 6月21日（火）～9月 4日（日）「シルクロードの文化遺産（1） オアシスの道」（仮称） 古 代 体 験：毎週土・日・祝日に、九歴ボランティアによる古代体験実施中（予約不要。有料・無料有）
講座・イベント	名誉館長講座：全 12 回の連続講座「シルクロードの考古学」（申込受付は終了しました） 九 歴 講 座：全 12 回 毎月第2土曜日（8月は第1土曜日、要申込、第5回～第8回は6月より受付開始。定員 160 名） 九 歴 ゼ ミ：4～6月「史料が語る大宰府の歴史」（受付終了） 7～9月「保存科学（仮）」（定員 50 名 要申込、申込多数の場合は抽選、5月中旬より受付開始） 夜のギャラリートーク：8月17日（水）（16：30～17：30 開催、申込不要、要観覧料） 講 演 会：8月27日（土）企画展関連講演会「調査報告会 2016」（要申込、7月より受付開始） イ ベ ン ト：7月 3日（日）きゅうれき七夕イベント（コンサートなど）（申込不要、参加無料） 各種夏休み子どもイベント（歴史教室・考古学教室・組紐教室・ナイトミュージアム など）
発 掘 調 査	大宰府史跡調査（蔵司地区）・県内遺跡発掘調査 4月～9月

求 菩 提 資 料 館 〒828-0085 豊前市大字鳥井畑 247 TEL・FAX 0979-88-3203	常 設 展 示：「求菩提修験道の世界」 企 画 展 示：4月23日（土）～ 5月29日（日） 九歴分館連携事業 春の企画展「藍としろ」～甘木絞り作品展～ 4月23日（土）～ 5月22日（日） 第5回「ふるさと写真コンクール」入賞・入選作品展 史跡ガイド活動：申し込みに応じて豊前市内の史跡をガイドします
甘 木 歴 史 資 料 館 〒838-0068 朝倉市甘木 216-2 TEL・FAX 0946-22-7515	常 設 展 示：「朝倉の考古資料と民俗歴史資料」 春 季 節 展：3月15日（火）～ 4月 3日（日） 「あ！さくら展 - 春爛漫～桜が主役の作品展～」 作品展とともに、庭園の桜の花を眺めながら春のひとときをお楽しみください。 特 別 展 示：7月中旬～8月下旬予定 「女男石護岸と江戸時代の治水（仮）」 自 主 展 示 会：4月15日（金）～ 5月12日（木） 「平成 27 年度 平塚川添遺跡公園トンボ玉講座受講生作品展」 4月26日（火）～ 5月 1日（日） 公文甘木書写教室作品展「第8回愉しくかきま書展」（最終日は 12 時まで）
柳 川 古 文 書 館 〒832-0021 柳川市隅町 71-2 TEL 0944-72-1037 FAX 0944-72-5559	企 画 展 示：～4月3日（日） 「松井家・立石家のおひな様」 常 設 展 示：4月 6日（水）～ 7月 3日（日） 「保存のかたち～史料を守り、伝える」 併設展：「新収史料のなから～地図と書～」 7月 6日（水）～10月 2日（日） 新常設展：「古文書の見方、読み方、調べ方」（仮） ＊展示替えに伴う臨時休館日：4月 5日（火）、7月 5日（火） 古文書入門講座：7月に募集予定、8月～9月の土曜日に実施予定（全 4 回） 古文書を集中して学ぶ初心者のための講座です。

※各館の行事や休館日（閉室）等については、各館ホームページまたは直接お問い合わせください。

福岡県内の指定文化財

そやまこうごいし

女山神籠石 [国指定史跡]

女山神籠石は、古僧都山（標高 282.4 m）西側の山麓に築かれた古代の山城で、外郭線は 3.9km と推定されています。明治 32 年（1899）、小林庄次郎により学会に報告され、昭和 10 年（1935）には石野義助により列石の調査がなされ、北側には列石が存在しないことと四つの水門（粥餅谷・長谷・源吾谷・産女谷）が確認されています。

その後、昭和 28 年（1953）に国指定史跡となりますが、指定範囲が水門と列石線のみであったため土取り工事により、列石線が約 100 m に渡り崩壊しました。このことにより、昭和 56 年（1981）には列石を含む南半分の山全体に指定が拡大しました。また、女山神籠石の中には山内古墳群が存在し、古墳と列石との新旧関係をつかむための調査もなされましたが、新旧関係は判りませんでした。なお、女山神籠石は、城門・建物などの内部施設も判っており、今後の調査研究に期待されます。

みやま市大字大草字女山



女山神籠石 長谷水門
（みやま市教育委員会提供）

九州歴史資料館 KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

〒838-0106

福岡県小郡市三沢 5208-3

☎ 0942-75-9575

FAX 0942-75-7834

URL <http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/kyureki/>

開館時間 午前9時30分～午後4時30分（入館は午後4時まで）

観 覧 料 一般 200（150）円 高大生 150（100）円

満 65 歳以上・中学生以下・

障がい者（同伴介護者 1 名）無料

※土曜日は高校生も無料

※（ ）内は団体料金（20 名以上）

休 館 日 月曜日

（ただし祝日・振替休日の場合はその翌日）

年末年始（12月28日～1月4日）



◆公共交通機関

《西鉄電車》天神大牟田線三国が丘駅から徒歩約 10 分

《J R》鹿児島本線原田駅からタクシーで約 5 分

◆自動車

《九州自動車道》筑紫野 I.C. から鳥栖筑紫野道路経由で約 15 分

《大分自動車道》筑後小郡 I.C. から国道 500 号線

県道 88 号線経由で約 15 分

《福岡都市高速》水城出口から国道 3 号線経由で約 25 分

